〈解答〉

1　1　A　作者の意図するところ　　B　直接

2　[a群]　イ　　[b群]　ウ

3　作者の個性

配点　各2点　10点満点

〈解説〉

1

1　第二段落で、筆者は演劇について、作者というものが見る側、享受者にとってはっきりしていないため、「作者の意図するところがなまの形ではっきり感知されることはない」と述べている。また、つよい自己主張をすることがすくなくない近代の劇作家であっても、「小説家のように、直接、作者の声を伝えることはできない」とも述べているので、この部分を抜き出す。

2　第三段落で、演劇が芝居として演じられる中で、作者の書いた脚本には演出が加えられるため、原作者の意図や作意が変化すると述べられている。続く第四段落でも、演者による芝居が加わることで、演者の個性による表現が加えられるとあることから、[②]に入る言葉は、前で述べたことに後ろで述べることをつけ加えるときに使われる「さらに」が適当である。

3　近代において、レーゼドラマへの志向はつよくなり、演劇は、つくり上げられる過程を通じてもつ複雑な総合性により、芸術的価値を減する傾向にあった。それは「作者の個性の表出をそのまま理解しようという文学伝達の意識」の高まりによるものであると、第六段落から第七段落にかけて述べられている。